



施設



環境
自然

22
まいん

べっしやま かん 別子山ふるさと館

「別子山」
ふるさとの名は永遠に



別子山ふるさと館

べっしやま かん 別子山ふるさと館

は、別子山保土野にあります。
別子小・中学校の道を挟んだ所です。
平成2年(1990)に開館しました。
建物は2階構造になっており、2階部分が
道路に面し、1階部分が銅山川に接してい
ます。

別子銅山の近代化産業遺産について写真やパネルで
紹介され、当時使用されていた鉱山の工具類も併せて
展示されています。さらには、赤石山や別子周辺の鉱石
や岩石の標本、生息する動植物の写真や標本、歴史年
表、昔の生活用具なども見ることができます。まさしく
「別子山」がぎっしり詰まったところですよ。

館外には、長さ42メートルの甌穴峽吊り橋があり、
橋を渡って2、3分のところに甌穴群を見ることができ
ます。

夏季は10時から17時、冬季は10時から16時まで開
館、休館日は毎週火曜日と、年末年始です。入館料は無料
です。ふるさと館から銅山川を下流(四国中央市方面)に下り、天皇橋を渡って上部へ進むと
「森林公園ゆらぎの森」へ行くことができます。



館内の様子



ふれあいめぐりあい

きせき 奇跡の人



こんどう きよし
近藤 清さん

こんどう きよし 近藤 清

さんは、40年も前からクマガイソウを大切に育てられて
います。毎年5月上旬の開花時期には1週間ほどで、ご自宅の庭に約3,000
人の方が見学に来られます。人口270人ほどの地区に、これだけの人が集
まるのですからまさに奇跡です。

(テレビの紹介もあり、平成15年は8,000人を越えました。)

ところで、昔は別子銅山で坑夫として働かれており、手掘りでの採掘を経
験された貴重な方です。当時の坑夫の免許状(坑夫取立状)もお持ちです。

名前の由来は?

クマガイソウはラン科に属する多年草です。高さは20～40センチメートルほどです。
国内に広く分布していますが、園芸採取などにより、激減し、消滅寸前と言われています。
開花時期は4月下旬～5月上旬です。

さて、クマガイソウの名前は花の形があるものに似ているところからつけられました。
さて、それは何でしょう?

答えは、裏にあります。

